

とっとり夢プロジェクト 実施内容

1 概要

本事業は創造力とチャレンジ精神を持った高校生等が、自由な発想で主体的に企画・活動することを支援することとおし、生徒自らの自主性・個性の伸長、学校や地域の活性化につなげることを目的として平成26年度から実施しています。今年度は、選考を通過した以下の13企画を採択し、支援することとしました。

○令和7年度の取組内容

(1) 「地域デビュー、未来のリーダー」

鳥取西高校 代表 西尾 珠海(ニシオ タマミ) (支援額 500,000円)

鳥取しゃんしゃん祭において、他校やベテラン連等地域とのつながりをつくりながら参加することで鳥取を盛り上げるとともに、外国人観光客へのPR、小学生との交流、他地域の祭りとの比較等の活動をとおり、鳥取を愛し、伝統文化を次世代に繋ぐことで未来のまちづくりに貢献する。

(2) 「海の気持ちメーター～地元の海を知り、寄り添い、ともに歩む～」

青谷高校 代表 山本 柚花(ヤマモト ユズカ) (支援額 500,000円)

海を「多様な命を育み、人とともに生きる存在」として捉え、その“気持ち”に寄り添う視点から、水質や生物の調査、ごみ拾いと地引き網のセット企画等を他校や大学等と連携して実施する。

(3) 「スイカとイチゴで循環農業 ～地球温暖化に歯止めをかける優しい農業の探求～」

倉吉農業高校 代表 間屋口 蒼空(マヤグチ ソラ) (支援額 200,000円)

鳥取県の特産品であるスイカの栽培過程で発生する余剰のつるや葉、果実など多くの残渣を堆肥化して活用し、スイカ栽培後に定植時期を迎えるイチゴ栽培で新たなブランドづくりに挑戦する。

(4) 「第4回星撮県フォトコンテスト」

米子東高校 代表 宇野 權海(ウノ タクミ) (支援額 100,000円)

鳥取県が誇る星空環境についての認知度を上げるため、高校生が主体となって若者に星を見るときかけを作ることと目的とし、フォトコンテストや星空写真撮影会を開催する。

(5) 「わけあり梨から始める食品ロス対策で地元のPRを目指す！」

米子南高校 代表 上定 優奈(ウエサダ ユナ) (支援額 210,000円)

「わけあり梨」を活用した商品のレシピを考案し、企業と連携して商品開発、イベントでの販売等に挑戦し、食品ロスに貢献するとともに、地元の食材のPRを行う。

(6) 「みなと生徒会eスポーツ部」

境港総合技術高校 代表 深田 洋樹(フカダ ヨウキ) (支援額 500,000円)

「eスポーツ」やボードゲームなど「エコスポーツ」をとおり、世代を超えたコミュニケーション環境を作ることと、「人が集まり、賑わうまち」づくりを基礎とした地域活性化を目指す。

(7) 「日野高校生による日野高校魅力向上プロジェクト」

日野高校 代表 内田 鳩(ウチダ ハト) (支援額 160,000円)

郡内の人口減少が進む日野高校において、県内生と県外生が協働して、多様な視点から地域及び学校の魅力化3ヵ年計画を作成し、本年度は仮説検証を目的として「キャンプDAYがある学校」、「小動物がいる学校」等、学校の特色に沿った1日イベントの実施や効果検証を行う。

(8) 「古着リメイクプロジェクト」

青翔開智高校 代表 渡邊 響子(ワタナベ キョウコ) (支援額 130,000円)

消費者がファッションを楽しむ過程で無意識にエシカルな行動に繋がることを目的とし、企業と連携した古着リメイク等に取り組み、環境への負荷軽減や労働環境改善の必要性を知る機会とファッションの楽しみ方を提供するイベントを開催する。

(9) 「ウォーキング×ハロウィン～地域の多世代を笑顔でつなぐ」

倉吉北高校 代表 西口 晴流(ニシグチ ハル) (支援額 280,000円)

ハロウィンの時期に高校生が様々な仮装をして道中の保育園や幼稚園、介護福祉施設、周辺店舗などで生徒が調理したお菓子を配布し、倉吉式のハロウィンイベントへの発展を目指す。

- (10) 「唾液アミラーゼ活性を指標とした安価で簡易的なストレス評価装置の開発」
米子高専 代表 稲井 雅 (イナイ ミヤビ) (支援額 420,000円)

現代社会の問題として挙げられる「ストレス」の客観的な評価方法として唾液中のアミラーゼ分泌量に着眼したストレス評価装置を開発し、自己の状態把握や早期対処の実現を目指す。

- (11) 「鳥取から火星へ～火星移住用建材製作～」
米子高専 代表 鐘築 昇太郎 (カネツキ ショウタロウ) (支援額 320,000円)

人類の将来的な火星の探査・移住を見据え、自作で火星移住を想定した建材を製作することを目指し、火星の砂(レゴリス)を材料に想定した自作コンクリートの製作に挑戦する。

- (12) 「走力向上 AI コーチングアプリの開発～ドローン撮影の導入による新しい動作解析手法の提案～」
米子高専 代表 梅田 優太 (ウメダ ユウタ) (支援額 380,000円)

“走りのコーチング”を行う AI アプリ開発を、ドローンを用いた上空からの走行動作撮影を導入して取り組み、鳥取県の小中高生のスポーツ競技力の向上につなげることを目指す。

- (13) 「2025 大阪・関西万博出展を目指した地域文化×アート×プログラミングによる作品作り～最終調整および万博展示～」
米子高専 代表 上阪 彩子 (ウエサカ アヤコ) (支援額 300,000円)

地元の観光資源(妖怪・花など)を、アート×デジタルの作品制作を通して現代版にプロデュースし、大阪・関西万博で展示するための最終準備を行う。

2 応募状況

15企画

3 選考までの経緯

- 4月8日 県内高等学校、特別支援学校高等部及び米子工業高等専門学校に募集通知を发出
5月9日 受付締切
1次(書類)審査(15企画)
6月14日 2次(プレゼンテーション)審査(13企画)
6月20日 審査結果通知

<2次審査会の様子>

リモートによる審査。自らの企画をプレゼンテーション。



審査員からの質問にも熱心に応答。



＜過去の取組＞

令和6年度

（１）「走力向上AIコーチングアプリの開発

～トップアスリートの動きの極意をスマホとAIを使って可視化～」

（米子高専 代表 梅田 優太） （支援額 500,000円）

トップアスリートに依頼し、動作の映像撮影や測位センサーデバイスによるデータ取得、解析・分析について協力を得る。そして“走りのコーチング”を行ってくれるAIアプリを開発し、陸上・サッカー・野球をはじめとするスポーツ全般の競技力向上に役立てる。

（２）「日本初!!星取県の高専生による天体観測用分光器の『波長校正ユニット』開発」

（米子高専 代表 仲西 涼） （支援額 156,000円）

昨年度の採択事業で製作してさじアストロパーク等に寄贈した分光器について、課題点を把握、分析し、その解決を可能にする『波長校正ユニット』を製作し、さじアストロパーク及び米子市児童文化センターに贈呈する。そして、高精度分光観測が可能となるよう協力する。

（３）「2025大阪・関西万博出展を目指した地域文化×アート×プログラミングによる作品作り2 ～出展に向けた本準備～」

（米子高専 代表 高見 航生） （支援額 375,000円）

2025大阪・関西万博テーマ事業プロデューサーとともに、地元の観光資源である“妖怪”や“花”をモチーフにアート×デジタルの作品制作の本準備をすすめる。また、万博展示の実現を通して、鳥取県の魅力を全国そして世界に発信し地元の活性化につなげる。

（４）「海ごみ拾いと地引き網でエンジョイ海の課題解決」

（青谷高校 代表 山本 柚花） （支援額 225,000円）

地域の方と海の課題・魅力を発見・発信する機会として海ごみ拾いと地引き網をセットで行い、安全で楽しい海づくりに貢献する。また、近隣の児童、生徒へのチラシ配布、ポスター掲示や事後の写真パネル展示を行い、持続的開催の基盤を作る。

（５）「附属SB0プロジェクト～書道パフォーマンスでの交流～」

（鳥取大学附属特別支援学校 代表 大坪 来斗） （支援額 117,000円）

空港で書道パフォーマンスのイベントを開催することで、地域の方を応援する。また、同世代の人（高校生や大学生）と一緒に書道パフォーマンスを通して交流し、鳥取大学附属特別支援学校のことを知ってもらう。

(6) 「みなと生徒会 e スポーツ部」

(境港総合技術高校 代表 深田 洋樹) (支援額 225,000円)

境港市で「ねんりんピック e スポーツ競技」が開催されることに伴い、本大会への練習も兼ねた、参加者不問の大会を開催する。e スポーツを通じて地域の活性化を図るとともに、イベントの運営を通じて、課題解決能力を身に付ける。

(7) 「まんが×廃校で国際交流プロジェクト！」

(米子西高校 代表 大松 奏) (支援額 83,000円)

廃校を利用し、地域に住んでいる外国の方に「まんが王国とっとり」である本県の文化を知ってもらえるイベントを開催する。そして、様々な文化や価値観を交流できる機会とする。

(8) 「鳥取来んさいな～鳥取に感謝を～」

(鳥取西高校 代表 藤原 大和) (支援額 162,000円)

鳥取西高連を作り、他校生や小学生等との交流を深めながら地元鳥取の祭に参加し、鳥取を盛り上げることを目的とする。また、本県の祭について探究し、地域活性化に繋がる提言を行う。

(9) 「小劇場で地域の活性化を目指す」

(米子東高校 代表 谷田 花奈) (支援額 30,000円)

米子市の中心市街地の空き店舗を活用した小劇場をつくり、地域の交流や文化創造の核をつくることを目指す。都市部及び米子の商店街での上演を行うことで、都市部で米子の取組を周知する。また、小劇場の街中におけるにぎわいの効果を検証する。

(10) 「2024 とっとり子ども e スポーツ・デイ」

(米子松蔭高校 代表 柴田 一輝) (支援額 60,000円)

オンラインでなく対面での対戦を行う e スポーツを開催する。経験の有無を問わず、老若男女様々な立場の者が参加、親睦を図る交流ブースを設置し、多くの人と交流する場を設定する。

(11) 「鳥取の食の魅力を全国に ～地元のこだわり食材で最高のドレッシングを～」

(米子南高校 代表 松村 颯也) (支援額 67,000円)

「食パラダイス鳥取県」とも呼ばれる豊かな自然で育った食材を使った商品（ドレッシング）を開発し、地元である鳥取県の食の魅力を全国にPRする。

令和5年度

- (1) 「星取県の高専生が天体観測用分光器『スペクトリメーター』を作ってみた」
(米子高専 代表 吉田 浩瑛) (支援額 48.9万円)

分光器を備えた公開天文台は少なく、さじアストロパークにも設置されていない。分光器を製作して、さじアストロパークに寄付し天体観望会などで利用することで、教育研究活動に寄与する。

- (2) 「米子市内の高校生の協働による米子市中心市街地における活性化のための実証実験
(略称：YY(ワイワイ)プロジェクト)」
(米子高校 代表 新田 克登) (支援額 13.3万円)

米子市内の高校生(米子西、米子、米子南)がそれぞれの学校で学んできた得意分野を生かした協働により、米子市商店街活性化に取り組まれている民間業者と連携し、空き店舗の有効活用策を米子市や商店街へ提案することにより地域貢献を果たす。

- (3) 「2025 大阪・関西万博出店を目指した地域文化×アート×プログラミング
による作品作り」
(米子高専 代表 藤原ダイヤ) (支援額 40万円)

2025大阪・関西万博テーマ事業プロデューサーと地域文化を表現するアート×デジタルの作品制作を行う。また、その作品を2025大阪・関西万博で展示できるように準備を進める。

- (4) 「第2回星撮県フォトコンスト」
(米子東高校 代表 岡本 怜大) (支援額 12.5万円)

高校生が主体となって若者に星を見るきっかけを作るとともに、鳥取県の星空の魅力の認知に努めるため昨年度に続き第2回フォトコンテストを実施し、作品の展示会を行う。

- (5) 「附属SPデザインプロジェクト～ピザ販売におけるSDGs」
(鳥取大学附属特別支援学校 代表 加藤 真拓) (支援額 30万円)

お皿づくりの技術を向上し、校内や地域の方向けに絵付けなどのワークショップを行う。SDGsの観点から鳥取市河原町の窯元である廣瀬泰樹先生、小淵祥子先生の指導をいただきながら、再利用できるピザ用のお皿を開発し、販売活動などに活用する。

- (6) 「『抹茶 enjoy ふう』プロジェクト」
(鳥取大学附属特別支援学校 代表 福安 空我) (支援額 20万円)

学校設定教科「カルチャー」にて自分たちが考えたオリジナル和菓子と抹茶で、地域の方々など多くの人をおもてなしして、ゆったりとした時間をすごしていただく。

- (7) 「高校ダンス部主催のとっとりダンスバトル!SHOIN DANCE
CUP」
(米子松蔭高校 代表 山本 羽和) (支援額 20万円)

身体のみで誰でも参加することできるダンスイベントを開催することによって、幅広く県内外の人々の交流を図る。

- (8) 「小劇場で地域の活性化を目指す」
(米子東高校 代表 伊藤 ひより) (支援額 15万円)

米子市の中心部の空き店舗を活用して、50席程度の小劇場を造り、地域の交流や文化創造の核を作ることを目指す。その準備のため東京または大阪の小劇場を視察する。

令和4年度

(1) 「米子東高校打上花火大会」

(米子東高校 代表 足立 優子) (支援額 30万円)

コロナ禍において閉塞感の漂う中、地域や学校に活気を取り戻すため、地域の方々と明るいひと時を共有するため、また、医療従事者の方々へ感謝し、新型コロナウイルス感染症収束の願いを込めた花火大会を開催する。

(2) 「星撮県フォトコンテスト」

(米子東高校 代表 村家 帆南) (支援額 25万円)

「若者がつくる星取県ネットワーク」に所属している米子東高校自然科学部が主体となってフォトコンテストを開催することで、若者に星を見るきっかけをつくるとともに、鳥取県が日本有数の星の名所であるという魅力のさらなる認知に努める。

(3) 「鳥取県の科学系部活動における合同合宿」

(米子東高校 代表 土海 孝太) (支援額 35万円)

県下の高校生の科学的交流を合宿形式で行い、将来鳥取県科学の未来を担う人材を育成すること、および科学系部活動のネットワーク構築、各校科学部のさらなる発展を目指す。

(4) 「AI 技術を使って、鳥取の梨を守るプロジェクト！」

(米子工業高等専門学校 代表 今出 賢太郎) (支援額 40万円)

鳥取の地場産業である農業・漁業等を AI 等の先端技術により活性化する。カラスの食害を低減するために AI を用いた画像認識と撃退システム(音・光・ドローンなど)を連動させ、カラス等の有害鳥類による慣れ防止機能を導入した農作物保護システムの実現を目指す。

(5) 「『ととのう とっとり』探究活動」

(米子東高校 代表 八幡 大成) (支援額 7.5万円)

鳥取県がサウナを観光資源として県内外にPRしていることに着目し、主にスポーツ後の疲労回復やコンディショニングにサウナが有効であることを客観的に証明し、論文を作成することにより新たなサウナの魅力を発信し、鳥取県の観光振興に貢献する。

(6) 「e スポーツによる人間力向上プロジェクト」

(米子南高校 代表 水沢 滯音) (支援額 29.6万円)

e スポーツを活用した地域貢献実現のため、e スポーツプロデューサーを招き、学校主催の e スポーツ大会や高齢者施設等との交流会を企画・運営するために必要なノウハウを習得するとともに、プログラマーを招き、e スポーツの個人技とチーム力向上を目指すほか、e スポーツに向かう心構え等を学ぶ。

(7) 「ピザでつなぐ” レインボーピザ” プロジェクト」

(鳥取大学附属特別支援学校 代表 山岡 里夏) (支援額 30万円)

生徒たちが製作したピザ窯の破損部分が大きくなってきたため、修繕を行ったうえで、これまで生徒たちが習得したピザ焼き技術と育ててきた野菜や地元産の食材を使って、オリジナルピザを考案し、多くの人を喜ばせるイベントの開催を目指す。

令和3年度

- (1) 「地元企業・高等教育機関との連携による音楽ロボット製作研究、ロボット音楽会開催と科学研究コンテスト挑戦」

(鳥取工業高校) (支援額 20万円)

地元企業や高等教育機関の連携のもと、AI技術・画像認識技術・VR技術などの新技術を盛り込んだ音楽ロボットシステムを製作研究する。

- (2) 「竹林を活用した養豚課題改善プロジェクト～ブタ飼養環境改善と豚肉へもたらす効果の検証～」

(倉吉農業高校) (支援額 42万円)

地元で問題となっている荒廃竹林を活用して、竹炭を作成し、飼料に混ぜ込み給餌することにより、その効果を検証（糞尿のにおい、脂肪の厚さなど）するなどして養豚課題改善を図る。

- (3) 「鳥取県学生クイズ王決定戦！」

(鳥取城北高校) (支援額 11万6千円)

鳥取県でもクイズ文化を盛り上げるため、鳥取県学生クイズ王決定戦！を開催する。

- (4) 「～とっとりの魅力再発見！～若者が真剣に考えるとっとりPRプロジェクト」

(米子工業高等専門学校) (支援額 25万円)

TikTokを始めとしたSNSを活用し、鳥取の魅力を発信することで様々な企業からの注目を鳥取県に集め、企業を呼び込んだり、若者の定住を促したりするようなきっかけを提供する。

- (5) 「AI技術を使って、鳥取の梨を守るプロジェクト！」

(米子工業高等専門学校) (支援額 50万円)

AI等の先端技術を活用して社会実装につながる課題に取り組む。特に、鳥取の地場産業である農業・漁業等をAI等の先端技術により活性化する。

- ・カラス等による食害を低減するためにAIを用いた画像認識と撃退システム(音・光・ドローンなど)を連動させ、有害鳥類による慣れ防止機能を導入した農作物保護システムを試作

- (6) 「モンゴル高専との共同研究によるPM2.5吸着材料の開発」

(米子工業高等専門学校) (支援額 50万円)

PM2.5吸着材料を開発する。

- ・モンゴル高専学生と連携し、モンゴルの大気を用いた試験データを用いて、開発中の素材の性能評価を実施するほか、国際科学オリンピックISEF2021への出場等を目指す。

令和2年度

(1) 「The Global Streaming Musical “Flower by the way” as the Environmental Project」 (鳥取西高校)

新型コロナウイルスの影響で世界は経済的にも精神的にも苦しい状況に置かれ、社会の形態は働き方、教育、店などをはじめとして変わりつつある今、現状を乗り越え、コロナが過ぎ去った後の社会の在り方を考える必要があり、そのための環境啓発ミュージカルを上演する。

(支援額 50万円)

(2) 「TOTTORI パパイヤ普及作戦～青パパイヤは鳥取農業の救世主になれるのか～」 (倉吉農業高校)

果物のパパイヤの未熟果(青パパイヤ)には栄養価が高く、ブームになりつつある。これが山陰地方で栽培できないか、試験栽培等を実施する。

- ①青パパイヤ栽培の普及・・・一般農家へ苗を提供し栽培技術などの共同研究
- ②青パパイヤ加工品の研究・・・パパイヤリーフティーの試作と茶葉の生産・提供
- ③農福連携の実践・・・ラ・ルーチェ絆縁(鳥取市千代水)へ100株提供、栽培

(支援額 30万円)

(3) 「国指定史跡 鳥取藩主池田家墓所の亀趺に関する研究」 (八頭高校)

鳥取市国府町奥谷の鳥取藩主池田家墓所には亀形の台石を用いた亀趺円頭式の藩主墓・世子墓12基が残されている。八頭高校生徒有志「亀の会」は、昨年より池田家墓所の調査研究を行っている。池田家の藩主墓に亀趺墓が造られ続けた背景について仮説をたて検証する。

(支援額 20万円)

(1) 「研究サミットへの参加（研究発表）と小学校での化学実験体験出前講座の実施

（米子工業高等専門学校）

研究成果を「高校生バイオサミット」、「高専生サミット」、「女子生徒の科学発表交流会」で発表する。

出前講座として地域の小学校へ出向き「科学実験体験講座」を実施する。

（支援額 43万円）

(2) 「日本初！高校生V t u b e r プロジェクト」

（鳥取城北高校）

近年V t u b e rを活用した効果的な広報活動が注目されている。このようなV t u b e rを活用して、高校生が地域を含む校内外のイベント情報やご当地ネタに関する紹介動画を発信することで、多くのユーザーに対して本校のみならず鳥取県に興味を持っていただくことを目的に実施する。

（支援額 25万円）

(3) 「鳥取西高敷地内の再生可能エネルギーを利用したエアコンの開発

（S D G s）を意識したものづくり」

（鳥取西高校）

S D G s（持続可能な開発目標）の教育、エネルギー、気候変動を意識して高校生ならではの発想で作り上げたシステムの実践。具体的には、学校敷地内にある湧水や校舎屋上に設置してある太陽光発電システムの電力を利用したエアコンシステムの開発を行う。

（支援額 17万円）

(4) 「カレー王国鳥取に『乗っカレー』プロジェクト！ ～カレーで地域と米子南を盛り上げる～」

（米子南高校）

プロのカレー店の協力を得て、地域食材を使ったカレーを開発し、地域のイベントに出店する他、レトルトパウチに加工してパッケージをデザインし、道の駅や空港の売店でお土産として販売をする。

（支援額 15万円）

平成30年度

- (1) 「高校生まちなか起業プロジェクト」
(鳥取城北高校)

「地域デザイン部」と「ファ部」の2つの部活動が協力し、高校生自身のアイデアで企画、制作した商品を高校生が自ら販売するほか、まちなかの活動拠点等で地域の人々と関わりながらイベント等実施する学校及び地域の活性化を目的とした企画。

(支援額 33万円)

- (2) 「目指せ、編集王！映像編集の技術と楽しさを極める」
(米子工業高等専門学校)

県内学生・生徒の映像制作力向上を目指して他校の生徒も参加する編集ワークショップを開催するほか、高度な編集技術による映画製作を行い、「高校生のためのeigaworldcup」に出品。3年連続となる最優秀作品賞とともに、最優秀編集賞の獲得を目標に掲げた企画。

(支援額 37万円)

- (3) 「鳥取ドリームロボットプロジェクト」
(鳥取湖陵高校)

マイクロコンピュータを用いて制御する未来の乗用ロボット「ドリーム」と音楽ロボットシステム「ミューズ」を製作。「Dream Robot Exhibition」を開催し、「ミューズ」演奏会と「ドリーム」の試乗会を行う制御機器の可能性と学習内容の公開を目的とした企画。

(支援額 30万円)

平成29年度

(1) 「青谷因州和紙で青高自慢つくら〜で！」

(青谷高校)

地域の職人の方や企業の方からの技術指導等の協力を得て、現在利用の少ない売店の共有スペースを、生徒たちが集うことの出来るスペースとして、リノベーションする。生徒たちだけではなく、地域の方々との交流スペースとして活用する。学校及び地域の活性化を目的とした企画。

(支援額 50万円)

(2) 「世界に発信！鳥取の景色を活かした映画づくり」

(米子工業高等専門学校)

地元の自然や風景を活かした映画制作、上映会、映像配信を行い、地元をPRすることを目的とした企画。また、県内の他の高校生（放送部員）の参加も呼びかけ、県内学生・生徒の映像制作力向上を目指す。英語の字幕の制作にも挑戦し、世界に向けた配信も行う。

(支援額 30万円)

(3) 「自作アプリによって世界一の課外活動を創り出す」

(米子工業高等専門学校)

高校生の課外活動を支援するアプリケーションを創案し、それにより自分たちの課外活動を効率化してより高度な結果を得るための実証実験を行う。そして国内外のハイレベルな各種研究コンテストに挑戦することで、研究の可能性を広げることを目的とした企画。

(支援額 20万円)

平成28年度

- (1) 「高校生の科学研究コンテストで世界一を目指す！」
(米子工業高等専門学校)

国内外のハイレベルな科学研究コンテストに挑戦することで、科学研究の可能性を広げることを目的とした企画。さらに各種コンテストで発表した研究成果を、県高校生理数課題研究等発表会で発表することにより、県内高校生の科学研究活動等を活性化させる。

また、米子市水産振興課と連携中であるオリジナルちくわの作製において、世界最長のちくわ35mに挑戦する(ギネス挑戦)。(申請額 100万円)

平成27年度

- (1) 「高校生の科学研究コンテストで世界一を目指す！」
(米子工業高等専門学校)

国内外のハイレベルな科学研究コンテストに挑戦することで、科学研究の可能性を広げることを目的にした企画。各種コンテストで発表した研究成果を、県高校生理数課題研究等発表会で発表することにより、県内高校生の科学研究活動等を活性化させる。

(支援額 100万円)

- (2) 「高校生がプロデュース・まちなかチャレンジデー」
(鳥取西高校)

高校生がイベントを主催したり携わったりすることで、地域への愛着を深めることを目的にした企画。イベントによって、高校生が街なかへ出るきっかけをつくり、中心市街地の活性化と自分たちの地域に対する意識の改革につなげる。また、高校生が主体となる活動を地域にアピールすることで、地域社会と高校生の距離を近づけ、今後につなげる機会とする。

(支援額 50万円)

- (3) 「鳥取から発信・高校生による映画制作の拠点づくり」
(米子工業高等専門学校)

県内高校生による映画制作活動を活性化させることを目的にした企画。他校生との勉強会や作品制作および上映会を行うなど、高校生による映画づくりが可能となるような環境の整備を行い、校内外で共有することで、次年度以降も継続的に作品を生み出し、県内外に発信していく。

(支援額 50万円)

(1) 「智頭宿格子プロジェクト」(智頭農林高校)

智頭宿の格子を復元し、智頭宿の景観を良くすることを目的にした企画。智頭町の百人委員会と連携し、現在残っている格子を参考に、その伝統技術を地元の職人から学び、さらに高校生の視点から、より機能性を持たせた格子を作成する。完成した格子は希望する家庭に設置する。

(支援額 61万6,200円)

(2) 「手話パフォーマンス甲子園参加の取組」(鳥取湖陵高校)

11月開催の手話パフォーマンス甲子園出場に向けて、校内の各科や部活動の特色を生かした制作活動や創作活動を行い、学校が一丸となってこの大会の開催を盛り上げることを目的にした企画。電子機械科による自動演奏楽器製作、人間環境科による衣装製作、ボランティア部・ダンス同好会による創作手話ダンスを行う。

(支援額 70万円)

(3) 「もっと、絵をうまくなってまんが王国とっとりの高校生を全国にPRしたいプロジェクト」
(米子高校)

鳥取県(西部地区)の漫画好きの「まんが王国とっとりの高校生」を全国にPRするとともに、「まんが王国とっとり」を盛り上げることを目的にした企画。画力の向上のため定期的に講師を迎えワークショップを開催し、オフセット印刷による自作の漫画冊子を作成。近畿高等学校総合文化祭やコミケ等各種イベントで配布する。

(支援額 66万円)